

－ 巻頭インタビュー －

INTERVIEW

NEXUSホールディングス

星野万里

代表取締役社長

7月7日に創業30周年を迎えたNEXUS（ネクサス・群馬県高崎市）。『D's テーション』ブランドのホール店舗数は現在全国で68を数え、売上規模でもホール業界3位にまで上りつめた。その同社が30年の節目にグループのトップ交代人事を発表した。新社長の星野万里氏は現在33歳。世界基準のビジネス感覚でグループの更なる成長に向けてアクセルを踏む。

聞き手：文野崎太祐（本誌）

英国留学で社会科学を学ぶ

星野万里新社長は1991（平成3）年生まれ。群馬県沼田市でNEXUSの創業者であり現代表の星野敏氏の長男として生を受けた。『D's テーション』の1号店が沼田市にオープンしたのは星野社長が4歳のときだった。

「当時は創業して間もなく、家族で店舗の2階に住んでいました。お客様が開店前に列をなして並んでいる状況を2階の窓から見ていた記憶があります。いまでは考えられませんが、当時は家に帰るまでにお店の中を通らなくてはなりませんでした（笑）。よく事務所で従業員の方に遊んでいたと思います。いまでも沼田店に行くとき懐かし

思いますね」
高校までは地元の学校で学び、その後イギリスに留学した。

「中学、高校時代は、自分の思っていることを話せなかったり、人と違った考えを持っていると否定されたりする

ことが多く、日本の学校が好きになれませんでした。であれば思い切って海外の大学で新しいことを学びたいと思ったんです。アカデミックで学問的な素養があった母方の伯父の影響で、社会科学的な学問を勉強してみたいと思っていました」

イギリスで門を叩いたのは名門ブリストル大学。同校の政治・国際関係学部を首席卒業後は社会科学系の研究で名高いロンドン・スクール・オブ・エコノミクス（LSE）の大学院に進学した。

「経営や経済を学ぶというよりも、経済思想や政治哲学に関心があったので西洋思想史などを研究していました」

大学院の卒業を間近に控えて考えなくてはならなかったのが、その後の進路だった。第一希望は大学に残って博士課程に進む道。大学院の教授の何人かに相談すると、みな「学問の世界は面白いからいいじゃないか」と背中を押してくれた。ところが、一番尊敬

世界基準でNEXUSを高みへ

していた恩師に「君はビジネスをやったほうがいいよ」と言われて方針を転換。実業の世界に進むことを決めた。父親である星野敏代表は、それまでも含めて進路を決める際に一切口を挟まなかったという。

「父が何かを強要するようなことは一切ありませんでした。何を勉強しているのかを聞かれたこともなく、好きなことをやれと。そうして好きなことをやらせてもらったことに感謝の気持ちがあったので、NEXUSで仕事をすることを決めました」

帰国後は大手遊技機メーカーに入社した。

「NEXUSで働くなら、まず業界のことを知る必要があります。であればホール経営をする上でメーカーの視点から勉強させていただいたほうがいいのではないかと考えたからです。2年間在籍してこの業界の基本的な知識を身に付けていただきました」

メーカーを退社

NEXUSに入社。

グループのさまざまな

さに見てきた。20

事業もスタートさせ

そしてこの7月、

受けてNEXUSホ

式会社とNEXUS

締役社長に就任し

以下は星野新社長

続きはデジタルブックで
ご覧いただけます。

詳細はこちら▶

HOSHINO BANRI